

講義名	公務員特別演習			授業形態	
担当教員	関 陽 / 河辺 有希生		開講期・曜日・時間	後期 木曜日 2 時限	
	単位数	2	履修開始年次	1 年生	ナンバリング・コード PSC150

主題と概要

【目的】
公務員特別演習は、公務員を目指す学生を対象とする、1 年後期（演習 ）から 4 年前期（演習 ）まで一貫したプログラムである。「究極のサービスマン」とも呼ばれる公務員は、様々な分野で、多くの人々の暮らしを支える非常にやりがいのある職業である。
この演習のみで合格できるほど公務員試験は簡単ではない。また知識をただ暗記し、他者からの指示がなければ行動できない人材も求められてはいない。つまり公務員試験には、自ら考え、仲間とともに正解のない問題に挑戦できる総合的な人間力が求められている（まさに本学が掲げる「ネオ力のびのび」へこたえ）。そこで本演習は、高いモチベーションを維持しながら試験対策を効率的に継続できるように、様々なヒントを段階的に与えることで、公務員を目指す諸君をサポートしていく。

【内容】
公務員特別演習での主な学習内容は次の 2 つである。
・公務員に関する講演・講話・体験談や、受講生が自ら行う調査・発表・ディスカッション等を通じて、公務員に関する理解を深め、モチベーションを高める。
・公務員試験の「数的処理」、分野等の問題解決のために必要な知識や基礎力を修得し、能力の底上げを図る。

到達目標

公務員試験にむけて、次の 4 つの基礎力をつける。
対話力
インタビューを通じて、聴く、メモをとる、まとめる、質問する の力 発表する
基本情報を調べる力
自治体について、公務員の仕事（資料、インタビュー等）調べ、まとめる 発表する
教養試験、SPI の非言語分野の基礎学力

提出課題

・各授業ごとのワークシートを毎回提出する。
・発表用の 2 回のプレゼン資料
1 インタビュー記事
2 自分が選んだ行政区（自治体）のことを調べるとともに、公務員関連事項に関する調査・発表を行う。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

調査・発表と質疑応答については、発表後に講評する。
教養試験、SPI の非言語分野については、試験中に解答を行う。
講義記録ワークシートは次回授業の冒頭に返却し、必要に応じて講評や説明を行う。

評価の基準

・各授業ごとのワークシート（約 40%）
・発表用の 2 回の発表とプレゼン資料（約 40%）
1 インタビュー記事
2 自分が選んだ行政区のことを調べるとともに、公務員関連事項に関する調査・発表を行う。
・授業における、質疑やディスカッション等への参加や態度、発言等（約 20%）

本授業は期末試験を実施せず、成績は授業期間内で全て評価される。この科目は、継続的な学習を中心とした科目である。欠席すると以降の演習に支障をきたす恐れがある。このため、目標達成のためには、初回から最後まで全て出席すること。

履修にあたっての注意・助言他

本授業を履修するには、ガイダンスへの参加とエントリーシートの提出が必要です。
【ガイダンス】
1 年前期（5～6 月）にガイダンスを実施するので、履修希望者は必ず参加して下さい。
【エントリーシートの事前提出】
公務員試験は 4 年前期にわたる大手場の取り組みとなり、強い意志が必要となります。そこで履修希望者は、エントリーシートを提出して頂き、それが審査されて履修の可否が決定されます。エントリーシートの詳細はガイダンスで説明します。なお、本授業は定員を設けております。

【その他の注意・助言】
本クラスは、真剣に公務員試験合格を目指す学生を対象とする。理由なく遅刻・欠席しないこと。
・本プログラムの学習のみで合格できるほど、公務員試験は甘くない。本クラスはあくまでも公務員志望者のサポーターである。受講生諸君が独自に試験対策を練り、自習を重ねる必要があることは言うまでもない。
・学内の公務員試験対策講座（3 年生から始まる有料講座）等の受講、もしくは外部専門学校等の受講（ダブルスクール）を強くお勧めする。

・「基礎技能B」以外の関連する正課授業も、順次、履修することを強く推奨する。
（共通）法学入門、経済学入門、地球まじつくり術論、防災まちづくり論、業界研究（官公庁）
（行政職希望）民法A・B、憲法、政治学、財政学、行政学、地方行政論、地方財政論、経済数学、ミクロ経済、マクロ経済
（公安職希望）基礎技能A（数的処理）

教科書

・教科書は使用しない。

参考図書

その他

必要に応じて資料を配布する。

授業計画

- ガイダンス+課題「聴く・メモを取る・まとめる」インタビューの手法」・外部講師
予習：シラバスを見るときも、公務員について可能な限り調べること（120分）
復習：振り返り・まとめを行い、授業内容の理解を深めること（120分）
- 二二講義：「最終公務員試験の動向」・外部講師・「職業表」・外部講師・講評
予習：シラバスを見るときも、指示された内容の予習をすること（120分）
復習：振り返り・まとめを行い、授業内容の理解を深めること・インタビュー記事の作成（120分）
- 二二講義：「公務員の種類」・外部講師・「発表の方法について」
予習：シラバスを見るときも、指示された内容の予習をすること（120分）
復習：振り返り・まとめを行い、授業内容の理解を深めること・インタビュー記事の作成（120分）
- 講義+発表
予習：シラバスを見るときも、指示された内容の予習をすること（120分）
復習：振り返り・まとめを行い、授業内容の理解を深めること・インタビュー記事の作成（120分）
- 講義+発表
予習：シラバスを見るときも、指示された内容の予習をすること（120分）
復習：振り返り・まとめを行い、授業内容の理解を深めること・インタビュー記事の振り返り（120分）
- 二二講義：「発表の準備」・外部講師・「発表の方法について」
予習：シラバスを見るときも、指示された内容の予習をすること（120分）
復習：振り返り・まとめを行い、授業内容の理解を深めること・プレゼンの準備（120分）
- 講義+発表
予習：シラバスを見るときも、指示された内容の予習をすること（120分）
復習：振り返り・まとめを行い、授業内容の理解を深めること・プレゼンの準備（120分）
- 内定者交流会
予習：シラバスを見るときも、指示された内容の予習をすること（120分）
復習：振り返り・まとめを行い、授業内容の理解を深めること・プレゼンの準備（120分）
- 講義+発表
予習：シラバスを見るときも、指示された内容の予習をすること（120分）
復習：振り返り・まとめ・演習課題を行い、授業内容の理解を深めること・プレゼンの準備と振り返り（120分）
- 講義+発表
予習：シラバスを見るときも、指示された内容の予習をすること（120分）
復習：振り返り・まとめ・演習課題を行い、授業内容の理解を深めること・プレゼンの準備と振り返り（120分）
- 講義+発表
予習：シラバスを見るときも、指示された内容の予習をすること（120分）
復習：振り返り・まとめ・演習課題を行い、授業内容の理解を深めること・プレゼンの準備と振り返り（120分）
- 講義+発表
予習：シラバスを見るときも、指示された内容の予習をすること（120分）
復習：振り返り・まとめ・演習課題を行い、授業内容の理解を深めること・プレゼンの準備と振り返り（120分）
- 講義+発表
予習：シラバスを見るときも、指示された内容の予習をすること（120分）
復習：振り返り・まとめ・演習課題を行い、授業内容の理解を深めること・プレゼンの準備と振り返り（120分）
- 講義+発表
予習：シラバスを見るときも、指示された内容の予習をすること（120分）
復習：振り返り・まとめ・演習課題を行い、授業内容の理解を深めること・プレゼンの準備と振り返り（120分）
- 発表準備
予習：シラバスを見るときも、指示された内容の予習をすること（120分）
復習：振り返り・まとめ・演習課題を行い、授業内容の理解を深めること（120分）

上記の「教養」は面接試験に向けての対話練習や、教養試験対策の時間（20 分程度）

上記授業計画及び授業内容は外部講師の都合等で変更される可能性があります。

各授業において予習（120分程度）、復習（120分程度）あわせて 4 時間の自主学習が必要です。

・予習の内容は、各授業の最後に示します。
・復習の内容は、次の 2 つ
授業の内容を振り返り、まとめることが基本です。（B5 サイズのノートを用意すること）
公務員試験に向けて、「自分のオリジナル学習ノート」の作成をお勧めします。復習の振り返り、まとめを自分の言葉で記録していくことで、3 年後のあなたの公務員試験対策本が完成します。
「教養」での振り返りと演習課題

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A・L 型であるけれども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本演習は以下のディプロマポリシーと関連する。
【発達科学大学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力】
「ネオ力のびのび」へこたえず、の精神をもった人材
知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材
創造力 新しい視点と豊かな発想 を持った人材
自主・自立の精神を持った人材
仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材
「豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソン」となるための基礎能力

双方向授業の実施及び ICT の活用に関する記述

対話型の授業である。受講生が公務員関連事項について調査・発表・質疑応答を行う。

実務経験の有無及び活用

両名とも「実務経験なし」

備考
